

日本農業気象学会2008年度第3回理事会議事録

日 時：日時：2008年12月12日（金）13:00～17:00

場 所：東京大学農学部7号館 A 棟7階717号室（東京都文京区弥生1-1-1）

出席者：平野，小林，横山，田中，町村，荊木，小沢，沖，北野，岡田，朝倉，五十嵐，大野，
宮田，青木，蔵田，富士原

欠席者：皆川，井上，大政，後藤，菅谷，脇水，清野，松岡，星，渋谷，黒瀬，大原

[会長挨拶]

[議事録確認]

1. 2008年度第2回理事会議事録報告（大野，資料1）
資料の通り承認された。

[報告・連絡事項]

1. 日本農学会関係（富士原，資料2）
日本農学賞の選考方法を変更する動きがみられる。
2. 2009年全国大会および農業気象国際シンポジウム ISAM2009準備状況（岡田，資料3）
福島県農業試験場の要望を受け、初めての取り組みとしてミニ講座を開催する予定である。
発表申し込み件数は当初の締め切り時点で35件、延期した締め切り時点で130件であった。
ISAMでの発表は、はほとんど国内からの参加者で、多くはポスターであり口頭34件である。
3. 2010年全国大会準備状況（田中）
11月に幹事会を開き実行委員会を立ち上げた。実行委員長は名城大学東海大学林氏である。2010年3月28日から3日間の日程で開催し、何らかのシンポジウムは実施するが、国際シンポジウムの形では開催しない方向である。これは、多数の参加者が期待できないことと、編集待ちの論文がすでに数多いことを考慮した。助成金は例年通り50万円を受けることを予定している。
報告に対し、編集が間に合わないとすれば、それは委員会の問題だから実行委員会はあまり関わらずに、福島大会程度の取り組みをしてほしい。との指摘がなされた。
4. 日本農業気象学会シンポジウム報告（沖）
「農業気象研究の将来像を探る - 研究現場からの問題提起 - 」と題し、茨城県つくば市の研究交流センターにおいて2008年11月6～7日に開催した。会員66名と非会員若干名が参加した。特に懇親会には40名が参加し活発な交流がもたれた。

5. 役員選挙進行状況（荊木，資料4）

選挙の経過は資料のとおり。

辞退者が出るたびに通知と意思確認を繰り返すのを避けるため、永年功労会員表彰審査委員の選挙においては支部推薦の段階で意志確認を済ませておくよう依頼することを次期選挙管理委員会に申し送る。

6. 学会賞審査状況（大野）

11月7日に編集委員会より論文賞と奨励賞の推薦を受け、11月20日に学会賞審査委員会より候補者として推薦を受けた。

11月28日に学会賞審査委員会から学受賞と普及賞の候補者の推薦を受けた。これら結果をうけ、12月18日開票の予定で投票を実施中である。

7. 編集状況（小林，資料5）

「農業気象」ならびに、「生物と気象」の編集状況は資料のとおり。

8. ISAM2009論文への対応（小林，資料5）

編集員を新たに補充せず、現編集員に ISAM2009論文が終わるまで任期後も担当してもらおう予定である。専任の編集委員には「できれば」として、委員長から依頼し担当してもらおう予定である。

この論文は J-STAGE 投稿システムを利用する。

9. J-Stage 論文審査システムの進捗状況（小林，資料5）

2月中の本運用開始を目指して進めている。

10. 「農業気象」の電子化作業（大野）

2009年1月29日に庶務と編集委員で JST と初会合を持つ。

この際、特別号の掲載の可否について相談する。

11. 2008年度予算執行状況（朝倉，資料6）

執行状況は資料の通り。繰越金は出ない見込みである。

12. 研究部会の活動継続申請（大野）

園芸工学研究部会(部会長：佐瀬勸紀)より3年間活動継続が申請され、会長の承認を得た。

13. 学会賞選考方法および日本農学賞推薦に関する作業状況（青木）

井上会員、清野会員が作業グループ参加を辞退した。

現在の委員で引き続き検討を行い、スケジュールを含めて次回理事会で進捗状況を報告することになった。また、農学賞については、9月までに結論を出しておく必要のあることが指摘された。

14. 学会名称に関する会員意見交換会報告（蔵田，資料7）

活発に議論された。資料と内容の報告が、学会ホームページにも掲載されている。

15. AsiaFlux Workshop 報告（宮田）

2008年11月17～19日に、韓国ソウルにおいて開催された。10周年であることから記念行事も行われた。13カ国より約200名が参加した。学会はスポンサーとして関わっており、会長メッセージを宮田会員が代読した。発表は115件と多く、発表時間が短めだった。生物と気象に報告を掲載予定である。

なお、今回は、日本において平野会員を中心に開催する予定である。

16. 機関別認証評価委員の推薦（大野）

学会より3名の候補者を選出し、委員として推薦した。

17. 日本地球惑星科学連合評議会報告（大野，資料8）

組織改編により今後学会は団体会員として位置づけられ、会費(10,000円/年)の納入が必要となる。

団体会員になるかについて、次期理事会で検討することになった。

18. 共催・協賛・後援（大野，資料9）

「国際ワークショップ Biogenic Trace Gas Workshop in Japan」を協賛した。

地球惑星連合2009年におけるセッション「MAHASRI-ILEAPS 連携」の共同提案学会となった。

19. その他

なし

[審議事項]

1. 次期会長指名理事案（岡田・平野，資料10）

(1)会長指名理事を極力少なくし支部選出理事にも役割を担ってもらう、(2)各種委員会の副委員長は理事に指名しない、という方針が示され了承された。

この際、支部選出理事が実質の仕事を担当するならば、交通費の支出などを検討してほしいとの意見がだされ、検討することになった。

以下のポストと人事が承認された

総務理事 正：平野高司(北海道)、副：富士原和宏(会長指名)

庶務理事 正：大野宏之(会長指名)、副：__未定__ (会長指名)

会計理事 正：五十嵐大造(会長指名)、副：朝倉利員(会長指名)

編集理事 委員長：__未定__ (種別未定)

論文審査 正：町村 尚(近畿)、副：黒瀬義孝(会長指名)

出版：松岡延浩(会長指名)

選挙管理担当理事 __未定__ (種別未定)

ホームページ担当理事 __未定__ (支部選出)

企画講演委員長 星 岳彦(会長指名)

ここで、庶務理事(副)については、候補者を次回理事会までに決定する。

特別委員会の委員長を会長と副会長も務めることができるよう、会則22条を改正する。

次期執行体制において設置する特別委員会については、次回理事会まで次期役員で検討する。

2. 日本農業工学会役員候補者の推薦（大野）

日本農業工学会の役員候補者に、真木太一会員を推薦する。

3. 支部役員任期（大野，資料11）

本会役員の見学の大まかなスケジュールを、庶務理事が各支部に連絡する。

4. 支部長会議の開催（富士原）

2009年大会の際に、新理事、支部長、支部幹事からなる支部長会議を開催し、支部会誌・支部のみ会員・本会役員選挙、他について意見交換する。

5. 2009 - 2010年編集委員（小林，資料12）

2009-2010年の編集委員候補者の名簿が示され、了承された。

6. 会則第4章（会員）の改正案（大野・朝倉，資料13）

示された改正案に、体裁上の修正と次の修正を施して改正案とし、総会に提案する。

- ・ポストクと見なすものの雇用契約期間を1年から1年以内に変更する(8条2項)。
- また、参考表の「学生・ポストク」会員の資格の定義において、次の修正を施して使用する。
- ・雇用契約期間を1年から1年以内に変更。
- ・「ポストク会員資格は3年間を限度とする」を削除。

7. 2009年度一般会計予算案作成方針（朝倉，資料14）

予算案に基づいて検討した。この際、未納の会費が多いことが指摘され、これを減らすために以下の対応を取るようになった。

- ・会費未納者リストを次回理事会で配布し、支部組織を通じて納入を促す。
- ・可能であれば振込用紙を可能であれば養賢堂から会員に配布する。
- ・大会に会費納入窓口を設ける。

8. 会員数増加に向けた方策（平野，資料15）

案で示された方策に加え、学生会員、ISAM 時の新規会員を大切にするとの方策を考へる方向で引き続き検討する。

9. 2009年農業環境工学関連学会合同大会（東大大会）のシンポジウム案（蔵田）

案があれば合同大会の代表幹事である蔵田会長に送る。

10. ハンドブック出版（富士原）

何らかの出版物を出すことが決定した。出版物の性格については、現/次期の会長/副会長からなる作業グループで検討を加えることとなった。

出版物の方向性として、ハンドブックよりももう少し深く書かれ大学における講義内容程度のものが望ましいとの意見が出された。

11. 佐藤忠良先生への感謝状および記念品（蔵田）

富士原(起稿) 黒瀬(筆耕) 大野(押印) 富士原(贈呈準備)の手順で感謝状を手配し、記念品と併せて1月中にお送りする。

12. その他

[その他]

1. 2009年度第1回理事会の開催予定

2009年3月13日金曜日の13:00より東京大学農学部7号館 A 棟7階717号室において開催する。入学試験に伴い入校制限がある場合は会場を変更する。

2. 年度の「度」の字の扱いについて

評議員会、総会、大会の名称において「度」を外すこととする。